

(別添4)

## 【大野市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、ICTの活用と少人数によるきめ細やかな指導体制の整備による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、子どもたちの資質・能力を育成することが求められている。

本市においては、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を普遍のバックボーンとし、新しい時代に向けた魅力ある大野市らしい教育を引き続き推進していく。その中で、「個別最適な学び」を実現し、児童生徒一人一人の力を最大限に引き出すきめ細かい支援を行ったり、児童生徒が他の児童生徒や地域の方と共に課題解決に取り組むなどの「協働的な学び」を実現したりすることで、時代に負けない「生き抜く力」「論理的な思考力」を培っていく。

#### 2. GIGA 第1期の総括

1人1台端末の整備については、令和元年度に240台、令和2年度に1,568台、令和3年度に466台を整備し、整備率100%を実現した。ネットワークの整備については、令和2年度に市内全小中学校で実施し、GIGA スクール構想の実現に向けた校内通信ネットワークを整備した。

また、情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、1人1台端末の家庭への持ち帰りを可能とし、デジタルドリル等を用いた家庭学習など、様々な場面で活用することで、児童生徒の学習意欲の向上及び学習環境の整備に努めた。

しかし、ICTの活用実態については、学校間で差が生じていることが課題となっている。また学校の規模等によって持ち帰り学習の頻度についても差が生じている。

解決策としては、市内の情報担当教職員で構成している教育DX部会を活性化し、各学校の実践例の紹介やICT活用を推進していく中で課題となっていることを解決できる機会を確保していく。またその中で新しい課題が出た場合には、研修を開催するなど、課題解決に努めていく。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

(1)「1人1台端末の積極的活用」

研修や市内の情報担当教職員内での情報共有の場を作っていくことで、各学校の端末活用に関する課題を解決し、どの学校においても積極的に端末を活用できる環境を作る。

#### (2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

これまでも行ってきた学習支援ソフトを活用した授業に加え、新たに取り入れるデジタルドリルの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びを充実させる。また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

#### (3) 「学びの保障」

現在、各学校において、「誰一人取り残さない学びの保障」に向けて、不登校や体調不良により欠席した児童生徒に対して授業配信を行っている。GIGA 第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用していく。